

様式2 【生活様式などの無形のもの】

ふくしまの森林文化調査カード

県 HP公開 (可 ・ 否)

区分	1. 森づくり 4. 森と暮らし	2. 森の恵み 5. 森の文化財	3. 森と技 6. 森の風景
分野 (ふりがな)	(分野) カジゴ焼き	(ふりがな) かじごやき	
地域独特の呼び方	カジゴ焼き	かじごやき	
タイトル	カジゴ焼き		
伝承地域	只見町		
由来	(いつ、どこで、誰によって起こり、どのようにして現在まで (いつまで) 伝えられてきたか) 只見町では、古くから毎年晩秋になると各家庭ごとに里山に入り、冬の間の暖を取るための炭を焼いていた。		
内容	(内容と共に、行事・祭りの場合は実施の時期、郷土料理の場合レシピなども) カジゴ焼きは、窯を作らずに行う製炭方法で、里山に掘った穴でナラ等の雑木を燃やす原初的な炭焼きである。自家用の炭として、主にこたつ用として使われた。縦1m、横90cm、深さ1m程の穴を掘り、雑木をどんどん積み重ねて3、4時間ほど燃やす。穴に燃え残った雑木が貯まった頃に濡れた藎をかぶせ、土で覆う。密封状態にするため、土はしっかりと踏み固める。1週間ほどしてから掘り起こす。カジゴの炭は、火力は弱いなが長持ちし、こたつにはもってこいの炭である。カジゴ焼きは、山の恵みを活用し生活に取り入れた先人の技と言える。 晩秋に里山から幾筋もの煙が上がる様は只見町の風物詩でもあったが、練炭や豆炭が普及するようになると次第にカジゴ焼きは行われなくなり、昭和55年頃にはその姿を消してしまった。		
文化財等の指定状況	—		
問い合わせ先	只見町教育委員会	電話	0241-82-5320

【継承活動を行っている方がいる場合】

個人	氏名 (ふりがな)	※顔写真がありましたら、コピーか電子ファイルをご恵与願います。(貼り付けずに、名前がわかるようにして同封ください。)
	性別・年齢	男 ・ 女 歳	
	生年月日	明治・大正・昭和・平成 年 月 日 生	
	住所・電話	〒 電話	
団体	職業		
	団体名 (ふりがな)	
	代表者氏名 (ふりがな)	
	団体の設立年月日	明治・大正・昭和・平成 年 月 日	
	問い合わせ先	電話	

【フリーフォーマット】

キーワード

只見町蒲生の3名の方に協力して頂き、30年ぶりに、カジゴ焼きが復活しました。子どもの頃に親の手伝いをしていた記憶を辿りながらのカジゴ焼きでしたが、りっぱなカジゴが出来上がりました。

只見町は9割以上が山で、山と共に人間も動物も一緒になって生活している町です、と語ってくれました。(平成25年11月)

①



穴を掘る

②



雑木を燃やす

③



濡れ藁をかぶせ、土で覆う

④



できあがったカジゴの炭